

## 第2学年1組 生活科学習指導案

1、 単元名 「町たんけん2」～もっと遠くへ行ってみ隊！～

2、 単元のねらい

乗り物を利用して遠くの町に出かけることを通して、公共物や公共施設の利用のきまりやマナーがわかるとともに、そこでの施設や人に親しみをもってかかわり、自分の生活を広げていくことができるようにする。

3、 ひびき合う子どもたちを目指すための指導の工夫

(1) 児童の実態

本学級の児童は何事にも一生懸命取り組むことのできる児童が多い。全体での話し合いの場面においては、どのような場面でも自分の考えを積極的に発言しようとする児童と、比較的答える内容が決まっておき、自信をもって発言ができる場面では発言をしようとしないう児童とに分かれる。生活科での話し合いの場面においては、国語科、算数科と比較すると自分の考えを積極的に発表しようとする児童が多く、自分たちの活動をよりよいものにしていきたいという願いを覗うことができる。

「町たんけん1」では、まず自分が住んでいる町のひみつについてクラスの児童に紹介した。その後、友達の紹介を聞いて自分が実際にその場所に行き確かめたいひみつをもとに、各方面へ探検に出向いた。同じ学区なのに自分の住んでいる町とは全く雰囲気が異なることに驚いたり、普段自分が住んでいる町に関して、違う児童の発表を聞くことによって新たな発見をすることができたり、探検して発見したことを発表し合うことで、新たなことに気付くことができたりした児童が多くいた。そして、そのような気づきを受けて、「もっと遠くへ行ってみたい。」という願いをもった。「町たんけん1」は春から夏にかけての活動であったため、児童は時間が経った現在でもそのような願いを持っているのかを確認してみた。前単元が終わったところで、次はどのような活動をしたいのか児童に聞いてみると、多くの児童から「もっと遠くへ行きたい。」という声が上がったことから、児童の中に変わらずそのような願いがあることが分かった。

学区には小田原駅があり、JR・小田急線、箱根登山線・大雄山線・新幹線・多数の路線バスが通っている。しかし、夏休みにどこかへ出かけた思い出を発表させると、ほとんどの児童が公共の交通機関ではなく、自家用車を利用して来た。一方で、毎日学区外から一人で電車に乗って通学している児童もごくわずかであるが、そのような子は、ホームにある電光掲示板の見方を知っていたり、「各駅停車」「急行」などの違いも分かっているようであるが、それ以外の児童の中で自分で切符を買ったりバス代を支払ったりして公共交通機関を利用した経験をしている子はほとんどいない。

また、同じく夏休みにどこかへ出かけた思い出の発表を聞いていると、公共施設を利用する経験も少ないようである。利用したことのある児童に聞くと、図書館で本を借りたり、マロニエで催し物に参加したりしたことがあるようだ。

(2) 単元と指導

本単元は、学習指導要領の内容(4)「公共物や公共施設の利用～公共物や公共施設はみんなのものであることや、それを支えている人々がいることが分かり、それらを大切に、安全に気をつけて正しく利用することができるようにする」に基づいて設定した。

本単元では、公共物や公共施設の中でも特に、乗り物の利用の仕方を経験することを通して、今後の生活に結び付けて欲しいと考える。一つの場所に行くだけでも複数の方法が考えられるが、児童はその中からかかる料金やかかる時間などを見比べながらより良い方法を見出す。本単元での活動以降、公共の乗り物を利用する際にこのような経験を生かして欲しいと考えている。

春の遠足で大磯に行った際電車を利用しているが、そのときは時刻を自分で調べたり切符を買ったりという経験はしなかった。本単元では、その際の電車に乗った楽しい思い出を想起させながら、今回は全て自分たちで計画を立てていきたいという意欲を引き出したい。その後、児童の「遠くへ行きたい」という願いを実現するためにはまず何から相談をすればよいか問いかける。児童が何のために遠くへ行

きたいのかを理由付けをしっかりとさせながら発言させることで、初めに相談することを明確にしていき  
たい。そして、その後の話し合いでも「このような理由でこの場所に行きたい」「このような理由でこ  
この乗り物に乗りたい」などのように理由を言わせることで、他の児童に心の変容が表れるとよい。この  
ような話し合い活動を展開していく中にひびき合いの姿が見られるのではないかと考える。また、自分  
たちで公共の乗り物に乗った経験の少ない児童であるので、当然分からないことや困ったことが出てく  
るであろう。そのようなときに、情報交換により解決をしたり、解決の方法をみんなで見出したりして  
いく。グループ内で解決の方法を見出すことができれば、その方法を全体に広める場を設定したり、グ  
ループ内で解決できなければ全体に問いかける場を設定したりすることで、問題解決をさせていきたい。

生活科では、特に子どもの「思い」や「願い」を大切にしながら、具体的な活動や直接体験を中心と  
した学習活動を工夫していき、子どもが主体的に取り組むことができるようにしていきたいと考えた。  
そのために、生活科の学習における具体的な活動や直接体験の条件を整理した。

- 子どもの生活と直接つながりのあるもの。
- 子どもが興味を持ち、意欲的な取り組みが期待できるもの。
- 子どもの能力に適したもの。
- 子どもが五感を通して活動できるもの。
- 子どもが自分とのかかわりを見つけていけるもの。
- 子ども自身の手で連続・発展させていけるもの。

以上6つの条件を考慮しながら、本単元では、指導計画にあるような具体的な活動や直接体験となる  
活動を取り入れることにした。また、グループ活動を中心に、子どもたち自身が計画を練っていく場  
面、または、学級全体での話し合いの場面で驚きや発見、共感などのひびき合いが期待される。

#### 4、 単元の評価規準

ア、生活への関心・意欲・態度	イ、活動や体験についての思考・表現	ウ、身近な環境や自分についての気付き
乗り物など公共物や公共施設に 関心をもち、安全に気をつけて正 しく利用しようとしたり、さまざ まな場所や人々に親しみをもっ てかかわり自分の生活を広げたり しようとしている。	公共物や公共施設の利用の仕方 やマナーの大切さがわかり、体 験したことを工夫して表現する ことができる。	公共物や公共施設の利便性、そ こにかかわる人々や実際に利用 することができた自分のよさなど に気付いている。

#### 5、 活動の流れ（全17時間）

	学習の流れ	活動への支援・評価
つかむ	遠くへ探検に行くために、何から相談するか話 し合う。 自分たちの力で探検に行く意欲を持つ。 探検に行くために、まず初めに何を相談すれ ばよいのかを話し合う。	なぜそれから相談をしたいのか、理由をつけな がら発言させるようにする。 【関】探検をすることに興味を持っている。 (発言・振り返り)

<p>深める</p>	<p>1 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">探検に行く場所を決めよう。</span>        行きたい場所について、行きたい理由を話し合いながら場所をいくつか絞っていく。        ・探検の目的        ・場所の決定</p> <p>2 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">何に乗って探検に行くのかを決めよう。</span>        乗りたい乗り物について、乗りたい理由を話し合いながらいくつか絞っていく。</p> <p>( 1、 2のどちらかが本時)</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">探検に行くための準備をしよう。</span>        探検の計画をたてるためには、どんな準備が必要かを考える。        ・公共施設についての情報交換        ・行き方(交通手段、道順)の調査        ・公共交通機関の利用の仕方の調査</p> <p>計画を立てる中で、分からないことを解決する方法を考え、明らかにしていく。        ・情報交換をしながら解決をする。        ・実際に駅に行って解決をする。</p> <p>解決したことを基に、改めて計画を立てる。        ・かかる時間、道順、料金、ダイヤ、マナー        ・しおり作り</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">探検に行こう。</span>        グループごとに、自分たちで計画したことをもとに探検に出かける。</p>	<p>1と2は、前時までの話し合いによって相談する順番を決める。  <b>【思】</b> 実際に行ったことのある場所や体験を思い出し、紹介することができる。(発言)        自分の体験や、集めてきた情報をもとに、行きたい理由付けをさせながら発表させる。</p> <p><b>【思】</b> 乗ったことのある乗り物や体験を思い出し、紹介することができる。(発言)        行きたい理由、乗りたい理由を探するときには、聞いたり調べたりした情報を参考にしてもよいことを伝える。        自分の体験や、集めてきた情報をもとに、乗りたい理由をつけながら発表させる。</p> <p>市内の地図を掲示し、学校と目的地へのイメージを持たせる。        調査のしかたや情報について、他のグループの児童と交流を持つ場を設定する。        計画を立てて行く上で困ったことを発表し、他の児童に聞く時間を毎時間必ず設ける。        一つの行き方しか見つけられないグループには、他の行き方もないか声をかけ、複数の行き方を見つけれられるようにする。        しおりに何を載せるのかも、児童に話し合わせる。</p> <p><b>【関】</b> 探検をすることに興味をもち、進んで計画を立てたり、準備をしたりしている。        (行動・発言・振り返り)</p> <p><b>【思】</b> 分からないことを聞いたり、施設などを調べたりしている。(ワークシート・行動)        探検に必要なことを考え、計画を立てたり、準備したりすることができる。        (ワークシート・行動)</p> <p><b>【気】</b> 公共物や公共施設を利用するときは、ルールやマナーを守らなければならないことに気づく。(行動・ワークシート)</p> <p>探検ボランティアに協力をいただく。児童があらかじめどこまで計画を立てているのかを知らせ、すでに分かっている情報については教えないように願います。</p> <p><b>【関】</b> 公共の施設を、関心をもって利用している。        (行動)</p> <p><b>【思】</b> 周りの人のことを考えて行動できる。(行動)</p> <p><b>【気】</b> 公共の施設はたくさんの方が利用していることに気づく。(行動・ワークシート)</p>
------------	---	--

ま と め る	<p>探検したことを発表しよう。 発表の準備をする。 発表会をする。</p>	<p>様々な発表の仕方があることを紹介しながら、自由に発表ができるようにする。 探検をして発見したことや、みんなに是非知らせたいと思ったことを発表させるようにする。 発表を聞きながら、「なるほど」「わたしも行ってみたい」などと思ったことを振り返りカードに書かせる。 【関】探検してわかったことを伝えるために準備しようとしている。(行動) 【思】探検して分かったことを分かりやすく発表することができる。(行動) 【気】みんなが利用するのはルールやマナーを守ることに気づいている。(ワークシート)</p>
------------------	--	--

6、 本時について ( 3 / 1 7 時間 )

( 1 ) 本時目標

自分の経験や集めてきた情報をもとに話し合い、行く場所や乗り物を決定することができる。

( 2 ) 本時展開

学習活動	指導上の留意点・評価
<p>1、本時で何を相談するのかを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちで話し合いを進めているんだという意識を高めるために、こちらから何について話し合うのかを示すのではなく、児童から引き出すようにする。</li> </ul>
<p>2、 行く場所を話し合い、決定する。 何に乗って行くのかを話し合い、決定する。 は、前時までの話し合いによって、どちらをやるのが決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々で用意してきた「この場所に行きたい理由」や「この乗り物に乗りたい理由」を踏まえながら発言させる。</li> <li>・他の児童の発言を聞いて、心の変容があった場合はそれも発言してもよいことを確認する。</li> </ul> <p>【評】・行きたい場所や乗りたい乗り物を、理由を付けながら発表することができる。 (思考・表現) ・他の児童の発表を聞いて、理由付けをしながら探検に行く場所や乗り物を決定することができる。(思考・表現)</p>
<p>3、活動の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の話し合いを振り返り、思ったことや感じたことをプリントに書かせる。</li> </ul>

## 7、 実践を終えて

春に実践した「町たんけん」では、学区内の中で児童各々が希望する方面を探険したが、ある程度教師の方で行き先や行き方を決め、探険に行くまでにしなければならぬこともこちらから提示をしていた。しかし今回は、行き先も行き方も探険に行くまでにしなければならぬことも全て児童同士の話し合いによって決めさせた。そうすることにより、児童自らが様々なことに気づき、以後の生活に結びつけることができると考えた。

本時では、行き先の決定をするということで、自分が収集してきた情報をもとに、「だからここに行きたい。」と理由付けをさせながら話し合いを進めた。他の子の魅力的な情報を聞いて、「やっぱりここに行きたい。」と気持ちが変わった児童も多く見られた。そのような部分に心の変容があったと感じる。

行き先を決定した後は、グループを決め、そのグループごとに行き方の調査をし、決定していった。情報を集めて来るように言うと、ほとんどの子がインターネットを使って調べてきた。インターネットで何でも情報を得ることができる今日ではあるが、電話で聞いたり、実際に駅やバス停に行ってみるなどということもできるような声かけが必要だったと感じる。コンピュータがない生活には、生きないからである。しかし、町たんけんを終えた子どもたちの感想には「切符の買い方がわかった」「今までバスに乗ったことがなかったけれど、今回乗ることができてよかった」「駅の人に聞くのはドキドキしたけど、聞いてよかった。」などとあり、満足感を感じることもできたようである。

まとめでは、探険に行ったグループごとに劇や紙芝居、クイズなどの形で発表をした。探険先のことだけでなく、行くまでの電車やバスなどでの様子やマナーなどに触れている児童もいた。

今回の実践を通して、児童の願いを吸い上げながら授業を進めていく際に、教師が事前に予想できる展開と声かけのしかたを何通りにも渡って推測しておかなければならぬと感じた。児童に任せてよい部分と、教師が入って行かなければならぬ部分を見極めながら授業を進めなければならぬと思った。